



座光寺風景

座光寺保育園の子ども達の七五三参り

七五三参りを終え、神社からいただいた千歳飴を嬉しそうにかかえる子ども達は、とてもほほえましいです。
(写真は年長さん)



保育園お祓いの様子

座光寺保育園の七五三参りは昔から毎年行われている行事で、本年は十一月十二日、やや肌寒いながらも、秋晴れの絶好の天候の中行われました。

保育園から元気におしゃべりしながら歩いてきた子供たちでしたが、全員が靴を脱いで社殿に昇ると、普段とは違う神聖な雰囲気になや緊張した顔つきに。

神社の太鼓の音に驚いたり、鈴の音色に目をぱちくりしたりしながらお祓いは進み、最後は、ぎこちない仕草で拝礼



七五三参りをする家族

神社の氏子総代の方は、「氏子の皆様のご協力により、今年も無事に七五三の祭典を行う事ができ、心から感謝している。地域の子どもさんの健やかな成長を願うばかりだ」とおっしゃっていました。

また、この前日十一月十一日には、麻績神社の七五三参りが行われ、七歳・五歳・三歳を迎えたお子さんや、初宮参りのお子さんを連れた多くの家族連れが訪れました。

かわいらしいドレスや、凛々しいスーツを着たり、華やかな着物を着たりしたお子さんで、神社は一日おおいに賑わいました。

(広報篠田)

座光寺の子どもを語る会と 飯田コミュニティスクールについて

座光寺小学校PTA会長 小河原 秀樹

十月三日に、「座光寺の子どもを語る会」が小学校の体育館で開催されましたが、開催されたと言っても、「座光寺の子どもを語る会」って何だろう？というのが、ほとんどの皆様が思う所だと思えますので、ちょうどこのような機会をいただきましたので、少しご説明させていただければと思います。

「座光寺の子どもを語る会（以下「語る会」）の開催にあたり、推進委員会が設置されています。メンバーは、学校・PTA・地域からそれぞれ関連する代表者等の二十三名によって構成され、座光寺の子ども

の現状や望ましい将来の姿等を三者が一堂に会して協議し、子どもたちの健全な育成を指して活動しています。その活動の企画として「語る会」があるのです。そんな願いを込めた「語る会」はとても白熱します。普段話す事のない立場の人と話す事で、いろいろな発見があり、まさに「語る会」が、学校・PTA・地域をつなげる場になっています。さらに、飯田コミュニティ



多くの意見が出された語る会

スクールについてご存知でしょうか。これは座光寺小学校にも導入されています。これは、学校・PTA・地域が一体となつて地域に根差した学校をつくる仕組みです。つまり、「どのような子どもたちを育てるのか」「何を実現していくのか」といった課題を、学校だけではなく、保護者・地域が一緒になつて考え、協働し、共通の理解の下で、同じ目標に向かつて教育活動を進めていく事になります。

まさに「語る会」は、この飯田コミュニティスクールにおいても、とても大きな役割を果たしている事になります。今後多くの方にご参加いただき、地域と学校をつないでいただければと思っています。

座光寺地域は、古代から二〇〇〇年余の歴史の中で、恒川官衙遺跡や高岡古墳などに代表される価値ある歴史遺産が数多くあります。

二〇〇〇年 浪漫の郷づくりへ

湯澤 英範

これら地域の素晴らしい宝ものを活かして、リニア時代を見据えた都市との交流を通じて活力ある地域づくりを目指しているのが、「二〇〇〇年浪漫の郷委員会」です。

地域づくりの根幹を担うことから、自治委員会の直属として四年前に誕生し、試行錯誤の歩みを重ねてきました。本年度の事業計画では、最近の観光ニーズの変化を捉え、体験交流型で癒しの旅が提案できる「ガイド組織」を、地域の人材で立ち上げることを掲げ、そのための準備活動として、六月に「二〇〇〇年浪漫の郷を語る会」を開催しました。

語る会には、意欲的な方々の参加を得て、具体的な提案を含め貴重な議論が出来、更に、九月には、ガイドについての「学習会」を開催しました。



唐沢、蚕玉様からの眺め

講師に（株）南信州観光公社の竹前地域振興室長を招き、伊那谷観光の現状とガイド組織についての講義を受け、ガイド組織の立ち上げのクリアすべき課題を再認識しました。

また、十月には「座光寺の魅力を探る」地域探訪を実施。参加者は地域外の女子高生も含め三十名ほどで、熱心に魅力探しに励みました。特に、唐沢の蚕玉様から浅間岩のエリアは、「ビューポイント」として、今後の取組み次第では、多くの可能性を抱かせられました。

これら一連の取組みを踏まえ、多少の困難等は伴うものの、ガイド組織を立ち上げるべき時が到来したものと考えています。そこで、地域全体で二〇〇〇年浪漫の郷づくりの想いを共有し、リニア時代に輝く座光寺づくりに共に邁進しようではありませんか。

独居高齢者 声かけ訪問を実施して

健康福祉委員会 小木曾護裕

六月と十二月の年二回、座光寺地区の六十五歳以上の独居高齢者世帯、該当者八十三人、ひとり暮らしの方を各区担当で訪問し、最近の様子、「お元気ですか」、「買物はどうしていますか」、「ゴミ出しはしていますか」、「困ったことはありませんか」などお聞きし、台帳に記載して共有し、役立てています。

声かけ訪問時には一軒一軒に五箱入りティッシュペーパー一ケースを持参しています。訪問を心待ちにしているという対象者も多くいます。高齢者世帯の増加にともない住民同士による見守りが大事だと考えます。



敬老祝賀会

子どもたちの肩たたきにほっこり

健康福祉委員会 原 まゆみ

去る十月二十八日(日)、麻績の館人形劇ホールに於いて、敬老祝賀会が盛大に開催されました。今年は晴天に恵まれ、例年並みの七十名程の皆様にご参加いただきました。まず式典では、座光寺小学校六年の吉川仁通さんと、高陵中学校三年の北澤さくらさん、三村真奈さんによる作文が披露されました。そして、座光寺小学校六年生の皆さんによる合唱の後に、おじいさんおばあさんたちへ、子ども達から素敵なプレゼントがありました。それは、ステージから降りて肩たたきのサービスです。初めての事で、子ども達も少し照れくさそうでしたが、段々と慣れてきて、会場はとても



肩たたきのプレゼント



温かい空気に包まれました。続いて祝宴の部では、湯沢市議会議員の乾杯の後、バイオリンアンサンブル、恒例のハーモニカ演奏、そして、日本舞踊では中高生の初々しく可憐な舞いに、大きな拍手が送られました。結びに、座光寺小学校の田本校長先生の万歳にて、楽しかった祝宴もお開きとなりました。

さて、会場が麻績の館での開催は今年で二回目でしたが、いかがだったでしょうか。マイクロボスの送迎では一部不手際もあり、ご迷惑をおかけした事をおわびいたします。反省点は次年度に生かし、敬老祝賀会がずっと続いていく事を切に望みます。

東京ふるさと高陵会
総会に出席して

自治委員会総務文教部

十一月二十五日(日)、東京霞が関ビルにおいて、首都圏在住の出身者でつくる「ふるさと座光寺会」と「東京上郷会」が合併し、「東京ふるさと高陵会」として創立総会が開催されました。

座光寺からは、十八名が記念すべき総会に出席し、十二時から新会長及び来賓の挨拶の後、審議事項・決議事項が原案どおり採択されました。その後、地元ゆかりの方等による記念講演等が行われ、懇親会では、終始和やかに、思ひ出話で盛上がつていました。最後は全員による「高陵中学校校歌」の合唱の後、閉会となりました。



記念講演会での一コマ

南信州・飯田産業センター

「産業振興と人材育成の拠点」へ

移転OPEN

これまで飯田市上郷別府に所在していた南信州・飯田産業センターが、平成三十一年一月四日に座光寺の『産業振興と人材育成の拠点』『愛称 エス・バード』(旧飯田工業高校あと地)に移転し、オープンします。

今回は、南信州・飯田産業センターの移転オープンに先立ち、十一月二十日に内覧会が開催された際に説明のあったエス・バードの全体像を紹介します。

施設は、北側からA棟、E棟、B棟、C棟となっており、新たに増築したメインエントランスがエス・バードの入口となっています。

まずは、旧体育館棟のA棟について、一階は工業技術試験研究所となっていて、ここには従来の分析、解析機器や電波暗室を設置するほか、航空機産業に不可欠な国内唯一の環境試験機が整備されています。そして二階はホールとなっていて、五百人規模が集まれる大きさがあります。

B棟一階は売店や食堂(三

びきのこぶた)などがあり、売店奥には、地場産品を紹介する展示コーナーや様々な体験を催す体験コーナーがあります。二階は事務室や会議室となっていて、ここで拠点全体の管理運営がされます。三階には長野県工業技術総合センターの航空機産業支援サテライト、四階には起業家向けの貸部屋や経営相談室などが整備されています。

E棟は食品系試験室になっていて、食品産業振興のために整備されました。

C棟は二階に信州大学航空機システム共同研究講座のフロアーとなっていて、平成二十九年四月から既に開校しているスペースです。一階は、個人やグループでも利用できるコワーキングスペースを整備するなど、様々な人が共に創造することができる空間として整備しています。

航空機産業を中心とした飯田下伊那地域の産業の拠点として、これから本格的に動き出していきます。(広報部)

石川除、長野県の史跡に指定

河原地区 北原 敬悟

座光寺の石川除は平成三十年九月二十七日長野県の史跡に指定されました。

石川除は江戸時代後期の文政十一年（一八二八）から天保二年（一八三一）にかけて築かれたもので巨石を使い全長二一五・五m、高さ約三・七m、二段積の堤防で、二基の水門（九尺水門・中水門）があります。

天竜川に堤防が無かった江戸時代、洪水のたびに、河原に作られた水田を押し流すなど多大な被害がありました。



写真1

正徳五年（一七一五）の未満水で、大きな被害を受けた下市田村に飯田藩により宝暦二年（一七五二）強固な石積の惣兵衛堤防が完成しました。その影響で対岸の伴野村が洪水被害を被ることになり、伴野村は国役金御普請により文化六年（一八〇九）に堤防を築きました。その結果伴野堤防により跳ね返された激流が対岸下流の座光寺村を襲うことになり、その対策として座光寺村の人たちは強固な石の川除を作ることとし、工事費三六〇両余の約七〇％を村人が負担して完成したものです。その後幾多の修築を繰り返しましたが、明治元年（一八六八）に改築されたものが現存する石川除です。（写真1）

惣兵衛堤防、石川除に護られた水田地帯は、惣兵衛堤防と同時に開削された大井（用水路）、と下流の座光寺の内井、別府の前川によって下伊那有数の産米地帯となりました。

平成三十年十一月十七



写真2

日、石川除の県史跡指定記念学習会・並びに祝賀会が開催されました。

これに先立つ十一月十一日、河原地区各戸総出で石川除の清掃を行い、特に羽根は建物の基礎を取除き、覆土を放水で洗い流した結果築造当時の石組が現れました。（写真2）

現地学習会は、市教委馬場課長による川除に関する講話と同下平係長による現地案内があり、更に公民館に場所を移して、山内尚己氏の「座光寺に学ぶもの」の講演に耳を傾けました。そして祝賀懇親会で和気合い合いと杯を交わし、県史跡指定をお祝いしました。

座光寺の名物をつくMINTコンテストに参加して

飯田OIDE長姫高校 赤須帆華

今回、初めて「座光寺の名物をつくろうコンテスト」に参加させていただきました。このイベント自体あることを知らずにいましたが、座光寺の方々のお話を聞き、課題研究座光寺地区として参加させていただきました。

当日は、どの料理もレベルが高くユーマアのある出品ばかりで、このまま商品化できるのではないかと思うような、クオリティの高いものばかりでした。その中で、スイーツ部門、料理部門共に最優秀賞をいただくことができたことは、とても光栄です。

ただ、まだ二回目ということもあるのか、参加者人数はとも少なく、もっと多くの



高校生考案「座光寺の月灯り」

人に知ってほしいと思います。このイベントは地域活性化は勿論、座光寺に住む人が座光寺の食について知ることができるイベントであると思います。さらに、リニアが通ること、今まで以上に賑わいのあふれる地区になるかもしれないかもしれません。単なる通過駅とならないためにも、今ある名物は勿論、新しい、座光寺らしい新たな名物作りも必要だと思えます。このイベントは誰でも参加でき、自分の作った名物が座光寺の名物として有名になるかもしれません。

座光寺は可能性のある地区です。「座光寺の名物をつくろうコンテスト」は最も希望のあるイベントです。次回は、より多くの方々が参加する、座光寺ならではのイベントになってほしいです。

公民館育成部

ふるさと探検

麻績のひろばで火おこし

六年 北原 一護

十一月四日に、ぼくは、麻績のひろばで火おこし体験をしました。

お父さんとお母さんと弟の四人で行きました。

火おこし体験の前に、舞台校舎の説明をしてもらいました。説明が終わった後に、舞台校舎の花びらは花ごとに数がちがうと言う事を教えてもらって「桜の花びらつてすごいなー」と思いました。

次に火おこしで昔の人の火のおこし方を体験しました。最初まったくつかなかったけど、みんなで協力してつけることができてよかったです。



ふるさと探検に参加して

保護者 知久 正彦

十一月四日に「ふるさと探検」に参加しました。

名前はふるさと探検ですが、内容は舞台校舎の学習と火おこし体験と焼き芋を食べる、大人も子どもも楽しめる企画です。

最初に焼き芋の用意をしました。芋を新聞紙で包み水に濡らしてからアルミホイルで包みます。子ども達は楽しそうにやっていて何個も作っている子がたくさんいました。

その芋を焼いている間に塩澤公民館長さんが舞台校舎について話をしてくれました。校舎の屋根に「麻績小校」と書かれている話や校舎に使われている柱が現在の飯島町で伐られ、天竜川を流して運ばれていた話など興味深い話をしてくれました。

てくれました。

また、舞台校舎の中も見学できました。たくさん資料が展示されている部屋や歌舞伎の芝居のため、舞台の床板が外せるようになっていたり新しい事をたくさん知る事ができました。

舞台校舎について学習した後、火おこし器を使って火をおこす体験をしました。火をおこせた子どももいれば煙は出るのに火がつかない子どもいたり、大人も子どもと一緒に火をおこそうと夢中になりました。その後、焼けた芋をみんなでお腹いっぱい食べました。

日々便利に変わる中、火をおこす大変さを学んだ事、永く守られてきた校舎がある事を忘れないようにしたいと思っています。お世話になった方々ありがとうございました。



舞台校舎 中二階(なかにかい)

公民館育成部

子ども科学教室

楽しかった科学教室

五年 久保田 優希

十一月十七日に公民館科学教室がありました。科学教室では、始めに作り方や仕組みの説明がありました。作ってくれてあった箱カメラで実際に写真をとって見た後、自分で箱カメラを作ってみました。

私が一番楽しかったのは箱カメラを作るところです。作るのに必要な材料は、机の上に置いてくれてありました。むずかしかったところは、牛乳パックの底を切るところと、トレーシングペーパーを底に張り付けるところでした。牛乳パックの底は厚くてはさみで切りにくかったです。トレーシングペーパーは、スルスルスベってくしゃくしゃになってしまい、やり直そうとするとうすくてやぶれてしまいました。でも最終的にはうまくできました。楽しかったところは、ビニールテープを牛乳パックに巻いたところです。ピシッと巻いて巻くのが楽しかったです。写真をとるのも楽しかったです。写真は、



カメラをのぞいて...

レンズを通して日光が感光紙に当たることで、景色が感光紙に写ります。写真をとるのには、思ったより時間がかかりました。その日は天気良かったので、三十分位できたと時間がかかるそうです。ピントを合わせるときは、物の上下左右が反対に見えるので、写真におさまるような良い位置に動かす時大変でした。写真はモノクロで、はっきりとは写らなかったけど、本当に紙に写っていて、すごいと思いました。牛乳パックがカメラになるなんて知らなかったので驚きました。

すごく楽しかったので、来年の科学教室にもまた参加したいです。それから、他の麻績の里の行事にも参加したいと思いました。

リニア中央新幹線関連事業等の進捗状況について

二〇二七年開業予定のリニア中央新幹線及び関連事業等について現在までの進捗状況は次のとおりです。

①リニア本線・保守基地関係

現在、用地測量及び物件調査が行われている。

環境対策としてのフード設置については、これまで強く要望しているが検討中とのことで進展していない。

伊那谷総合治山事業所の移転補償に伴う現地建替工事は来年四月から開始される。

用地関係者組合は、リニア本線を上段（欠野沢川・土曾川の間）と下段（南大島川・欠野沢川の間）に分けて今後設立される。

②国道一五三号飯田北改良関係

現在、物件調査が行われている。

九月二十一日に用地関係者組合設立総会が開催された。

③座光寺上郷（アクセス）道路関係

上段（土曾川大橋より上）地区のフルツライン取付部及びトンネル施工部が示され、詳細設計及び用地測量が行われている。

下段（土曾川大橋より下）地

区は物件調査が行われている。

九月十日に県道市場桜町線関係者とともに用地関係者組合設立総会が開催された。

④県道市場桜町線関係

座光寺上郷道路への取付計画が示され、用地測量と物件調査が行われている。

関連事業として、座光寺踏切の歩道新設工事及び宮前踏切の廃止に伴う通学路を確保する工事が行われている。（座光寺踏切は一月下旬から六月末まで通行止め）

九月十日に座光寺上郷道路関係者とともに用地関係者組合設立総会が開催された。

⑤座光寺スマートIC関係

スマートICの全体道路計画及びラウンドアバウト交差点の計画が示され了承された。九月十七日に用地関係者組合設立総会が開催された。二〇二二年三月供用開始を目指している。

関連事業であるスマートIC等の名称を地域の皆さんに募集し審査した結果、座光寺スマートインターチェンジ・新大久保橋・座光寺原ラウンドアバウトと決定し市へ報告した。

⑥代替地整備関係

宮の前・唐沢地区については、今年度末までに道路整備計画素案が示される予定である。

共和地区については、南信州広域連合が整備検討を進める広域的施設の動向を踏まえて検討される。

⑦風越山トンネル関係

リニア長野県駅西側から松川橋梁まで（約四十八km）の一部区間は、地下水への影響が少ないシールドマシンにより掘削するシールド工法が示され、設計・施工計画及び発生

土搬出方法の検討が行われている。

⑧都市計画及び土地利用基本方針の変更

リニア長野県駅からの徒歩圏内である唐沢・宮の前・共和地区及び上郷地区の一部について、今後予想される土地利用の変化に対応し、地区の意向を踏まえた適正な土地利用を図るための地区計画の決定と、土地利用基本方針の変更が行われる予定である。

⑨産業振興と人材育成の拠点整備事業

産業振興と人材育成の拠点施設は現在整備中であるが、南信州広域連合はこの施設の愛称を「エス・バード（S・BIRD）」と決定した。

現在は通路・歩道・駐車場・排水等の外構工事が年度内の完成を目標に実施されている。

平成三十一年一月四日には南信州・飯田産業センターが開所する。（自治委員会産業建設部）



市場桜町線 座光寺踏切歩道新設工事に伴う全面通行止めについて

県道市場桜町線の座光寺踏切に歩道が新設されるため、平成三十一年一月下旬から六月末までの約五ヶ月間、工事により座光寺踏切が全面通行止めとなります。また、併せて工事期間中、安全管理のため、近接する宮前踏切も閉鎖されます。

平成三十年七月から平成三十年十二月まで三回の住民説明会が開催され、工事のスケジュールや通行止めによる車両及び歩行者の迂回路、小中学生の通学路の変更等について説明がされてきました。

通行止めの期間について、当初は六ヶ月間の予定でしたが、地域から要望をあげ、約五ヶ月間と短くなりました。

小中学生の通学路については、唐沢踏切もしくは市場踏切へ迂回して登下校を行うこととなりました。

今後、定期的に情報提供がされる予定です。しかし、冬季節間であり、また、春先には地域行事が盛んになるので、工事期間中の交通安全には心掛けたいものです。（広報部）

座光寺での 派遣研修を 振り返って



宇高 竜哉

尼崎市から派遣され、半年にわたる研修も十一月末をもって無事に終わりを迎えました。最終日には、お世話になった皆さんへ研修についての報告をして、送別会を開いていただきました。そのとき、ある方から「座光寺で感じたことや、良いところはわかった。じゃあ悪いところはどう思ってる？」と聞かれました。私は「んー、どうですかね」と考え込んでしまいました。私が、悪いというより課題と感じたところを言うなら、委員を長年されている方が結構おられて若い方や新しい方が少ないところではないかと思えます。運営面から見ると慣れている人が多い方が助かるのですが、継続性から見るとうどうでしょうか。

実は尼崎でも同じようなことが言えて、例えば自治会活動という後任がなかなか見つからず会長などを長年やっている方もおられます。でも座光寺の公民館活動では、仕組みとして地区や壮年団からの選出があり、いろいろな方が公民館活動に関わる「きっかけ」があるのは良いのかなと思います。なぜかというところ、公民館委員の皆さんとお話させていただく中で、地区からの選出等で公民館を始めたが、やっていくうちにやりがいを感じたり、地域の方々との新たな関係性を築けたり、運営側に入って初めて見えるものがあつた…など、委員の皆さん自身の中で変化があつたという話を聞けたからです。

尼崎で地域の活動に関われるようなきっかけづくりってどんなものがあるだろう…と考えてみました。これからは思いつかないので、これからそんなところも考えていきたいと思っています。

また、「悪いところってどこ？」と聞いてくれた方は、それだけ座光寺のことを真剣に考えているのだらうと思います。今回座光寺で活動に関

わる中で、そのような熱い思いを持った方々とたくさんお会いできて、私自身、職員としての地域住民の方々との向き合い方について考えさせられました。

尼崎に戻ってから住民の方とお話ししていた時に、「この前自治会の会議で言い合ってた…。その人は『自分にとってメリットがない』とか色々言うから、『そこまで言うなら自治会をやめたらどうですか』って言ったつたわ。メリットとかそんな話じゃないやろ」といった話を伺いました。その方は自治会や小学校など地域でいろいろと活動されており、お話をしていく中で、ここにも熱い思いを持った方はいるのだと改めて感じました。それに気付けたのも、座光寺で様々な方と一緒に活動させていただけたからだと思っています。

この半年間で仕事面で学ばせてもらうことはありましたが、私個人としても座光寺の素敵な方々との出会いがあり、良い経験をさせていただきました。

本当にお世話になりました、ありがとうございます。

クラブ サークル 紹介

ワンバウンドふらばる バレーボールクラブ 恒川スプリングス

私達恒川スプリングスは、スポーツ大会でもお馴染みのワンバウンドふらばるバレーボール（通称ワンふら）を毎週定期的に楽しもうと今年の六月に発足しました。二〇代〜五〇代まで二〇余名で賑やかに楽しんでいます。

園児や小学生のいる家庭が多いので、子ども達も体育館で遊んでいます。育児に余裕が出てきてスポーツをして余暇を過ごしたい人にピッタリです。ボールは軟らかくて大きいので手や指が痛くなりません。全員がローテーションするので、平等にプレーに加わる事が出来ます。

初めてワンふらを経験した三人の子どもの母親は、「雰囲気、和やかでとけ込みやすく、私も子ども達も毎週体育館に行くことが楽しみです」と言ってくれます。



私は飯田市全体のワンふら大会も企画していて年に数回は他チームとの交流を深めています。勝つ喜び以上に、どれだけ仲間達と楽しんでいるかを基準に賞を出しています。

恒川スプリングスは自分のチームなので賞は出しにくい立場なのですが、他チームを圧倒するほど笑って楽しみながら試合に臨んでいます。勝つことが全てではないニュースポーツの楽しさを存分に味わっています。

みんなバレーボール未経験ですが、一時間も練習すれば、だいたい動けるようになりまし、大人になってからは始めるには最高のスポーツです。興味のある方は私たちと一緒に楽しんでみませんか！

代表 正木（清水地区）

座光寺の自然 シリーズ⑭ 南本城が常緑樹林に？

「座光寺の段丘崖の林は本来常緑樹林だ」とこのシリーズで書いたことがありました。最近南本城の森を歩いて、そのことを実感するいくつかの事例をみつめました。

麻績神社裏のカシの林



麻績神社の裏山にはこのようなアラカシ・シラカシの幼木が育っている。十年後は常緑樹に覆われるだろう。高い木は落葉樹、サクラ類だ。

麻績神社の裏に冬になっても葉が緑のアラカシ、シラカシの幼樹が育っています。写真にみるとおり、その数もかなりのもの。それだけでなく本丸跡の南側には胸高直径十五cmほどの大きなシラカシもあります。

これらのカシにはどこかに種を供給する親木があるはず。どうやら旧小学校グラウンドの脇にあるアラカシの太木と思われる。種はドングリですから斜面の上に運ぶ動物がいると思われる。ドングリを運ぶ動物としてはカケス・リスがよく知られていますが、麻績神社ではほとんどみたとがありません。ネズミ類かもしれません。

近年増えた常緑樹

この他にも近年に増えた種類があります。サカキ：段丘崖の下部に広く幼木が生えています。全て幼木ですから、近年に侵入したものかもしれ

ません。親木がどこかにあると思われませんが、発見できないです。以前は神事に代替のソヨゴが使われていたが、昨年の麻績神社にはサカキが使われていました。



マンリョウは多くないが、広く分布している

マンリョウ：やや湿ったところに見られます。近年に麻績神社の石段脇に植栽されたが、林内には高さ七十cmほどの大きなものがあります。植栽以前からあると言えます。シュロ：幼木が少なからずみられます。庭木の実が運ばれたのでしょうか。アオキ：これはたくさん生えています。庭木から逸出したものか、以前より自生していたものかわかりません。ヤツデ：麻績神社の周りに数本あります。植栽されたものと思われる。ただその種子が芽生えたものの可能性もあります。この他ヤブコウジ、テイカカズラも挙げるができるでしょう。ただこれらの種類は以前から少なからずありました。

昨年初めて発見された種類

種類

ユズリハ、サネカズラが昨年に初めて見つかりました。それぞれ一個体だけですが今後の動きが注目されます。ユズリハは新しい葉が出ると古い葉が落ちるところからつけられた名。しばしば庭木に使われています。サネカズラは美しい実が付きませんが、つる植物で庭木にはしません。サネカズラは数年前のリニア環境アセスで土曽川付近から見つかっていました。



ユズリハ



サネカズラ

(伊那谷自然友の会 小林正明)



編集後記

クリスマスも終わり、今年も残りわずかとなった。今年は甚で「平成最後の〇〇」と言うフレーズをよく聞いた。来年(平成三十一年)四月三十日に天皇が退位。翌日(五月一日)に新天皇が即位し、改元(元号が変わる)するためだが、新しい元号はいったいどんな元号になるのだろうか？

日本で初めての元号は、あの有名な「大化の改新(六四五年)の「大化」が始まりだそう。その後、中断期間もあるが、七〇一〜七〇四年の「大宝」から一九八九年〜現在の「平成」まで、元号は一三〇〇年以上続いている。「平成」の元号は今まで四番目に長い三十一年。明治以前は天災や飢饉を理由に、天皇一代の間に何度も変わったこともあるが、明治時代に「天皇一代に元号一つ」という決まりが出来た。天皇の退位による改元は、江戸後期の一九九代光格天皇以来、約二百年ぶりとなるそうだ。

次号「広報座光寺四十八号」は『平成最後の広報座光寺』という事になる…。どうしようかなあ。

(広報部)